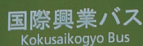


よみせんぽ

Vol. 46

与野霧敷川
Yono Kirishikigawa

先行

新都01 電建經由
北浦和駅西口

新都02 白鰐雷建住宅

新築分譲住宅 建築費、電気・ガス・水道もつと便利に
こくさいばすどつとこむ

[illegible]

まち歩き 14 バス停に行く2
バス停と地域の変遷

バス停と地域の変遷

前は、長い間疑問に思っていたバス停の名まえを調べてみて、思いがけなく昔の村名や小字名が多いということを知りました。バス停は狭いエリアに複数あるので、現在の住居表示だけでは足りず、昔の名まえの出番となったのでしょう。たとえば大宮区堀の内にあるバス停の場合——「堀の内」「堀の内三丁目」「東堀の内」「南堀の内」「堀の内一丁目」「堀の内橋」、初めて乗る人でなくてもまちがえそうです。

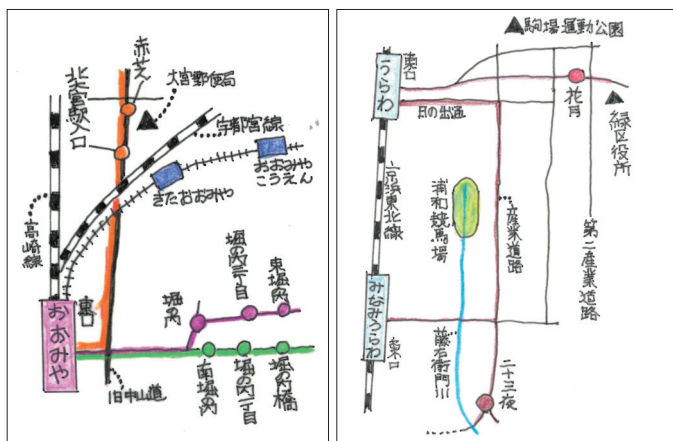
地名ではないバス停

「観音前」「天神前」「天王前」「稲荷前」など、信仰の痕跡を残すバス停も多くありました。見沼区南中野にある「^{こうしんづか}庚申塚」も、ここに庚申塔があったことに由来しています。『大宮の庚申塔』によれば「庚申塚」と「庚申塔」のハッキリした区別のないまま、庚申塔を庚申塚と呼び習わしていたのではないのでしょうか>とのこと、ここも塚があったわけではないようです。この庚申塔は近くの庚申塚公園に移されました。

南区太田窪には「^{にじゅうさんや}二十三夜」というバス停があります。信号にこの名まえがつけられるほど、通称として親しまれてきました。そばにある1832（天保3）年の二十三夜供養塔が由来です。どちらも地名ではありませんが、庚申信仰や

二十三夜信仰があったからこその名まえです。

北区東大成町にある「赤芝」バス停も——最近「赤芝・大宮中央総合病院入口」になりました——地名ではありませんが、“赤芝まで”と言えばタクシーの運転手さんにも通用す



関係路線図

る名まえです。なぜ“アカシバ”か？ 深く考えることもなく、近くにある昭和10年創業の“赤柴魚店”と関わりがあるのだろうと勝手に考えていました。店主に何うと“アカシバ”とは言っても、バス停の「赤芝」とは別系統とのことで、なるほど赤柴と赤芝、字が違います。赤芝家はこの交差点付近の地主だったそうで、中山道を走る「上尾」行のバスが、ここに止まらなかった昔、停留所の誘致に尽力したとのこと。それで「赤芝」というバス停になったそうです。

緑区原山にあるバス停「花月」も地名ではありません。浦和駅から東浦和や東川口方面へ行く路線にあって、バスの行き先表示でもよく見かけます。『さいたま市地名の由来』によれば、＜かつてそこにあった店の名前で……今、「花月」と書いた道路標識が掲げられている＞とのこと。その店を知る人は既にいなくても、今なお通称として親しまれています。

いかにも由緒のありそうな「鈴谷札の辻」は中央区にあるバス停です。「辻」そのものは村名や小字によくありますし、「札の（ノ）辻」も交差点や通りの名、地名として各地にあるようですが、これは鈴谷の地名ではありません。『武蔵國郡村誌』の鈴谷村の項には、＜揭示場 本村の南にあり＞と、制札を掲げる場所があったことが記載されています。このバス停あたりがその場所だったのでしょうか。

変わるバス停

時の流れとともにバス停も位置や名まえを変えてきています。前の号でとりあげた「御蔵騎西屋」と「御蔵火の見下」が、2022年から「鎌倉公園入口」と「片柳保育園前」に変わったような例です。古い住宅地図を見ると「御蔵騎西屋」バス停のそばに騎西屋があります。実際に現地へ行くと、騎西屋のあった場所はセブンイレブンに変わり、「火の見下」のバス停付近に火の見櫓^{やぐら}はありませんでした。バス停の名まえが変わるのも無理はありません。もう一つの発見は、1998年版の住宅地図には「御蔵騎西屋」しか載っていない——つまり「火の見下」はまだなかったということです。2001年には載っているので、「火の見下」は2000年前後に新設されたものと思われます。地図上では“消防団器材置き場”しか確認できませんが、当時は火の見櫓もあったのでしょうか。

大宮駅西口から二つ目、「新国道」というバス停があります。これは国道17号のことです。一般国道17号と定められたのは1962（昭和37）年ですが、その後もしばらくは“新国道”と言う人のほうが多かったように思います。『埼玉県市町村誌』によれば、1970（昭和45）年には浦和にも、県庁通りと17号

の交差点に「新国道」というバス停がありました。ところが1977（昭和52）年に出版された『わがまち浦和』では、そこが「検察庁前」に変わっています。“新国道”と言う人よりも“17号”と言う人のほうが多くなってきたのは、このころ——昭和50年代以降だったのかもしれない。その後、このバス停は「県庁前」に移設統合されました。

ほかに、大宮区土手町にあった「大宮警察」は警察署の移転に伴い「北大宮駅入口」に、「富士重工」はずいぶん前に「北区役所前」に変わりました。大宮駅から「宮下」方面への路線にあった、見沼区の「八木アンテナ」は「タムロン前」に変わりました。



新国道バス停

消えたバス路線

路線そのものが変更になったり廃止になったりした例もあります。とくにさいたま新都心駅付近は道路そのものが変わってしまったので、バス停も路線も大きく変わりました。『バス停留所』（2010年刊）という全国のバス停風景を写した写真集に、旧大宮市のバス停が2か所掲載されています。そのうちの一つ、さいたま新都心近くにあった「北袋住宅」も今はありません。

さいたま市から上尾駅へ行くバスも、かつては浦和駅西口から旧中山道をひたすら走り、北浦和駅・与野駅・大宮駅を経て上尾駅まで、乗り換えなしで行ける路線がありました。今も「大宮駅—上尾駅」間がありますが、中山道経由で「浦和駅—大宮駅」間をつなぐ路線はなくなり、北浦和駅と新都心駅の間にあった旧中山道沿いのバス停も（「針ヶ谷」「大原」「三菱研究所」「高台橋」など）なくなりました。また与野駅西口から本町通りまで、直線の道に行くバス路線がなくなり、この間は30分近く歩くしかありません。

『埼玉県市町村誌』を見ると、1970年頃には、市境を越えて遠くまで行く路線が、今よりずっと多かったことがわかります。浦和駅から池袋駅東口（蔵、戸田橋、志村坂上経由）に行くバスは一日40本運行され、ほかに春日部駅、草加駅、鳩ヶ谷駅、所沢駅、本川越駅へ行く路線もありました。大宮駅からは、岩槻経由で白岡市の岡泉や幸手駅へ行く路線、桶川経由や蓮田経由で菖蒲町（現久喜市）へ行く路線、さらに上尾・吹上などを経由して熊谷駅まで行く路線もありました。また蓮田駅と京成関屋駅（足立区千住曙町）を結ぶバスがあって、

年に全線開通したそうです。そして大きな橋は鯛ヶ窪橋といい、バス停の名まえにもなっていました。“鯛ヶ窪”は昔の小字名です。

おもしろいバス停

バス路線マップを見ていて、もう一つおもしろいことに気づきました。大宮駅西口にほど近いバス停「切^{きり}引^{ひき}川」です。この川は正式名称を鴻沼川（鴻沼排水路）といい、北区のつばさ小学校に水源をもつ一級河川です。上流の大宮や与野の北部では“キリシキ川”，南与野より下流では“コウヌマ川”と呼ぶ人が多いようです。このバス停あたりで“キリヒキ川”になったのは，“布団を敷く”を“ヒク”と発音する人がいるのと同じような経緯でしょうか。漢字も“引”があてられています。

さらにおもしろいのは、同じ路線にもかかわらず中央区に入ると、北与野駅近くに「与野霧敷^{きりしき}川」というバス停があることです。“キリシキ川”になっており、しかも「切」ではなく「霧」。また、同じ“コウヌマ”でも排水路は“鴻沼川”，用水路は“高沼用水”……よそ者には実にわかりにくいのです。それだけ地域の人びとと結びつきが強かったと言えるのかもしれません。ちなみに流域の旧上小村田村（中央区）には“切敷”という小字があり、東大成町（北区）にある1860（安政7）年の道標には、建立者の名まえの中に“切敷”という姓が刻まれています。

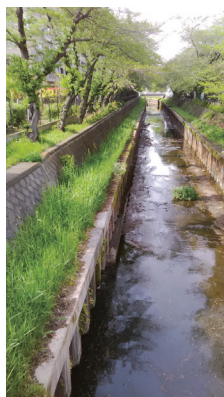
今回は、さいたま市内に多くのバス路線があることを再認識しました。そして初めて降り立つバス停は普通の住宅街さえ新鮮で、まだ乗ったことのないバス路線で、あてもなく終点まで行ってみたくなりました。（記 並木せつ子）

鴻沼川の流れ：上流から下流へ

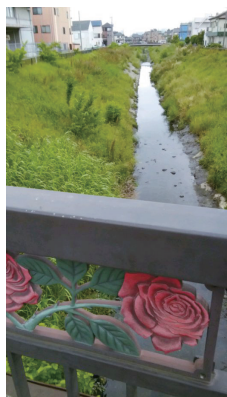
バス停切引川
近く（大宮）



バス停与野霧敷川近く
（北与野）



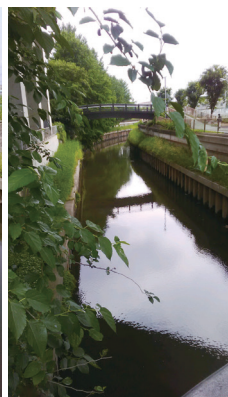
霧敷橋から見る
（与野本町駅近く）



鴻沼橋から見る
（南与野駅近く）



高沼橋から見る
（中浦和駅近く）



埼玉郷土の食 第2回



「昼うどん」

埼玉県産小麦で「昼うどん」に挑戦



加須や熊谷、鴻巣などは県内有数の小麦の作付け地域です。生産される小麦はめんに向いていることもあり、埼玉は昔からうどん文化が根付いています。「昼うどん」の言葉があるからには、ささとうどんを打って食す、うどん打ちは難しくないだろうと、ネットで検索した一番簡単な方法で挑戦しました。

そしてつけ汁は「すったて」。つまりすりたての胡麻。これに味噌に夏野菜を組み合わせた冷や汁（すったて）はご飯にかけることもあります。うどんのつけ汁にするのが夏の定番です。炎天下で農作業に明け暮れる忙しいこの時期、暑さで食が細くなっても食べやすく栄養補給を行う生活の知恵として伝承されてきました。

うどんを寝かせる時間に「すったて」を仕込み、ゆで時間は10分、併せて1時間ほどで昼うどんが完成しました。今回は中力粉を使用、もちもちつるつるの喉ごしの美味しいうどんが完成し初挑戦は大成功。（記 浅見 典子）



あの街 この街 俊一郎が行く *Second* Vol.40

雪と軽トラと日本海・2

かほく市での日々

夜の会議

北陸の美味しい海の幸を堪能し、早めに寝たいところでしたが、翌日からのキッチンカー制作の段取りも心配でした。日本酒でいい気分になっているスタッフには気の毒ですが、宿に戻ってから準備の状況や作業の段取りを確認。明日から工場の人たちも巻き込んだ作業、作業が混乱しないように順番を把握しておく必要があります。これまでのワークショップも段取りに頭を使いましたが、腕っこきが揃う明日の作業も緊張を感じていました。

職人衆

昨夜からの雪で、かほく市にある工場まで向かう道は普段経験することのないような積雪となっていて、地元の車でも立ち往生や事故を起こしている状況でした。しかし、軽トラは細いタイヤが雪をよく掴んでくれて無事に工場まで到着。工場では、先日の作業の挽回をしたいと燃える工場のメンバーが迎えてくれました。

本当は、板金が上手くいかなかった原因を対策して、この日の作業を始めるつもりでした。しかし、用意された板金部材を改めて突合してみると、釘打ちの場所などが合わない箇所があったりして、取り付ける本部の修正から作業する必要があります。作業は遅れていきました。

荒れる里山海道

朝から夢中で作業をしていたら、気づいた時には夜でした。工場の好意で、テイクアウトのイタリアンを食べながら、明日の作業の段取りを話し合います。反省することも沢山ありますが、今は前に進むことだけを考える。中途半端な状態では、キッチンカーを移動することも、さいたまで置いておくこともできません。後には引けない状況でした。

夕食を終えてこの日初めて外に出てみると、膝の高さを超える積雪。さすがに軽トラで宿まで帰ることは困難と判断し、友人のジムニーで送ってもらいま

した。金沢郊外の宿へは、除雪が入っているのと里山海道を使うことに。日本海沿いを走る夕日が綺麗な道です。遮るもののない日本海から吹き付ける風は強烈でしたが、追いついた除雪車の後をついて行き、宿に到着。除雪されていない宿の周りの一般道には、動けなくなった車が多数ありました。



とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975 年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）





未来を拓く

つなぐ・つくるプロジェクト・14



「待ち」の保健室から「街」の保健室へ

いろんな専門職が集まったまちなか保健室

つなぐ・つくるプロジェクトが行う「まちなか保健室」は、文字通り地域に出向いていく保健室です。健康相談だけでなく、何となく話ができる場所でもあり、子育てや介護、メンタルヘルスの相談などにお応えできるよう、保健師、看護師、薬剤師、鍼灸師、精神保健福祉士、介護福祉士など、いろいろな専門性をもった人たちで取り組んでいます。普段は施設や病院、調剤薬局で働く人など、その顔ぶれは多彩です。こうしたプロボノ（持っている専門性を無償で提供する）参加で取り組んでいることもまちなか保健室の特徴の1つ。血圧測定や薬の相談、靴裏の減り方で身体のバランスを診たり、障害をもつ子どもとの関わり方について相談があったり、趣味の話で盛り上がったり……「何でもあり」「誰でも歓迎」がまちなか保健室のいいところです。

当初、手探りで始めたまちなか保健室に、「何で薬剤師がいないの？」と疑問を投げかけてくれたのが、薬剤師の沖原雄さん（エニーキャリア株式会社中央薬局）です。よみさんぽに広告協力いただいている「毎日興業」さんとのご縁から、つなぐ・つくるプロジェクトのメンバーに加わっていただきました。

つながりは創り出していくもの

子どもの頃から喘息で病院に行くことが多かった沖原さん。そこで働く医療従事者の姿を見て薬剤師の道に進みました。製薬会社の研究職に就き、自転車好きでもあったことから、さいたま市にある自転車のプロロードレースチーム（さいたまディレーブ）のサポートに関わるようになります。しかし、選手から相談を受けた時、薬剤師なのに十分な力になれなかった経験から、「ケアができる仕事がいい」と、街の薬局に転職。薬剤師として患者さんと接しつつ、

薬局で眉毛カットやマッサージなど様々なイベントを企画しています。薬局は薬をもらう場所、薬剤師は薬を出す人、そんなイメージがあります。ところが沖原さんは、お薬を待っている間におしゃべりしたり、マッサージをしたり……そこでの会話の中に、患者さんの気持ちが隠れていたり、病気の発見につながることもあると言います。

そして「地域に役立つ薬剤師になりたい」と、街づくりを考える市民の会にも参加。「いろいろな人と出会い、つながっていくことで可能性が広がってくる」と、会社経営者や地元議員、地主さん、障害者団体など、異業種交流に積極的に参加して、つながりの輪を広げています。新しい店舗の開業予定地は、何とゴミ収集に従事する職員からの情報提供が決め手でした。街を走るゴミ収集車は、地域の様子を広くよく知る存在でもあり、そうしたご縁の連続が、沖原さんの目指す地域に密着した薬局につながっています。



中央が沖原さん

「あの薬局があって良かった」と思える街づくり

そして、沖原さんからの声がけで、薬局とまちなか保健室のコラボ企画が誕生しました。同じエリアで活動する障害のある人の就労支援事業所（ゆうの樹）も加わり、事業所で取り扱うフェアトレードのコーヒーをふるまいました。喫茶ルポーズの焼き菓子はあっという間に完売。コーヒーやお菓子をきっかけに、通りを歩く人たちや向かいの保育園の子どもたちとの交流も生まれました。「次はいつ?」「このお菓子はどこで買えるの?」「コーヒーを発注したいんだけど」などたくさんの声をいただきました。薬局の待合室では、保健師が健康相談に対応してゆっくりお話を聞いている姿がありました。いつもはただ通り過ぎるだけの場所が、足を止めたくなるような場所に変身したようです。このコラボ企画第2弾では、ヤギの喜々と楽々が登場します。

薬局がお薬をもらうだけの場所ではなく、困った時に相談できる場所、いつでもアクセスできる地域の窓口になれないうちと、沖原さんは考えています。沖原さんの取り組みは地域に密着した、人と人とがつながる薬局、まさにプロボノ参加で街づくりに関わっていく姿勢そのものです。

（記 大澤 美紀）

ヤギ日誌



ヤギ小屋づくり奮闘記

喜々と楽々が里帰りしている間（詳しくは前号参照）、寝床と遊び場を整備することになった。しかし、予算がない上に設計や作業の知識・経験もない。そこで、地元の工務店の方々に相談したところ、設計に関するアドバイスに加え、端材提供でもご協力をいただくことができた。構造上で強度が必要などころには単管パイプ等の建材も用いることとした。自然素材を多く使用することで温かみのある小屋ができそうだ。工務店の方々のご協力により、強度がありつつ、材料費を必要最小限に抑えた形で小屋づくりの計画を進められることとなった。地元の工務店のご協力に心から感謝している。

なんとか始まった小屋づくりだったが、素人の設計図ほど頼りにならないものはない。設計図というよりもイメージ図に過ぎず、至るところに問題が生じた。作業初日から現場で資材の組み方を再考し、多くの修正が必要となった。必要な備品も揃っておらず、買い出しや工務店への訪問などとても非効率だったが、何とか形になり3月下旬には喜々と楽々を迎え入れることができた。小屋のスペースが狭くなったからなのか……身体が一回り大きくなって帰ってきた

気がするのはきっと私の気のせいだろう。



小屋づくりスタート

小屋づくりにおいて注意したことは2つ。まずは、高温多湿を避けることだ。ヤギは環境適応力は高いが、暑さにはとても弱い。屋外に小屋を設置するため、熱気がこもらないように注意した。また、湿度が高い環境



餌を頬張る 2 頭（写真奥がヤギ小屋）



通気口から顔を出す楽々

ではカビの繁殖により消化不良を引き起こす可能性が高まる。そのため、パレットを使って高床にし、小屋内には通気口を設けた。その通気口から顔を出して通りかかる人がいないか確認している姿は、意図していなかったがとても可愛らしい。

2つ目は、ヤギが落ち着ける場所を作ることだ。ヤギは狭い場所を好む傾向がある。また、普段から互いに寄り添い合っている2頭の様子から、別室ではなく相部屋にした。常にお互いの様子を確認できることが、安心感につながっているようだ。



遊び場も整備

ヤギ小屋の製作費は、現在販売しているヤギグッズ（トートバッグとポストカード）の売上から一部捻出した。また、日々の餌代も必要だ。グッズは“エシカル cafe としょかんのとなり” ややどかりの里の各所で販売している。グッズ購入等でぜひご支援をお願いします。

（記 伊藤 侑矢）

インフォメーション

おかげさまで 創立 50 周年

トットン お役に立ちたくて50年。そして明日も、

建物総合管理 (設備 / 清掃 / 警備 / 管理運営 / 建築工事・設計 / 大規模修繕工事 / PM 業務)

M 毎日興業株式会社 50

〒330-0842

埼玉県さいたま市大宮区浅間町 2-244-1

TEL : 0120-156-365 (平日 8:30~17:30)

https://www.mainichikogyo.co.jp

パートさん
募集中!!



片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています



048 (686) 8601

開設時間

月曜日～金曜日

10時から16時



なんとか失くしたことがババ配...

ババ配なこと、困りごとを
気軽に相談してませんか

お問合せ 見沼区障害者生活支援センターやどかり

電話 048-682-1101

火～土曜日 (祝祭日を除く) 9:00～18:00



最近眠れない...



もしもし...

インフォメーションコーナーの
掲載広告を募集しています!

1マス (64mm × 46mm) 5,000円

援農ボランティア募集中

やどかり農園 (無肥料・自然栽培)



さいたま市見沼区染谷 1177-4
Tel 048-680-1891

◆やどかりの里職員募集

やどかりの里では、職員を募集しています。

- 非常勤 (週3日程度)
- 正職員 (新卒・中途採用)
- *要普通自動車免許

詳しくはやどかりの里法人事務局までご連絡下さい。

お問い合わせ) やどかりの里法人事務局 048 (686) 0494

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりこだわった本格とうふ。
宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。
大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257

さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。

野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL：048-854-6890 FAX：048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえでホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区) ●ひかりホーム(西区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター来入(見沼区)

さいたま見沼よみさんぽ

編集後記

前回から2回にわたっての「バス停」特集、いかがでしたか。

街の風景として見過ごしていたバス停に、こんな物語があるなんて……今回も発見の多い内容でした。

表紙の撮影にあたり、自転車で鴻沼川沿いを駆け抜けました。

見る場所(地域)によって川の呼び名が変わっているのが面白く、特集で紹介されているバス停や風景に出会えると何とも嬉しかったです。

「近所のバス停の由来を調べてみる」そんな夏の自由研究も面白いかもしれません。

(表紙写真・記 萩崎千鶴)



公益社団法人やどかりの里



やどかり出版



よみさんぽバックナンバーはこちらから
ご覧いただけます



公益社団法人やどかりの里



<https://www.yadokarinosato.org/kouhou/yomisanpo/>

さいたま見沼よみさんぽ 第46号

発行 2023年7月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891 Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<https://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷

公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を行っています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただけてきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同